

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	1/28
日時	平成 21 年 10 月 22 日(木)	場所	座間市公民館

1. 開会【企画財政次長による開会】

定刻になりましたので、ただいまより平成 23 年度からの次期総合計画に関わります地域別懇談会を開催させていただきます。座間市において現在、第三次総合計画の計画期間内であり第三次の総合計画につきましては平成 3 年に策定されまして、平成 22 年度をもちまして期間が終了と、こういう状況でございます。従いまして、平成 23 年度からの次期総合計画について皆様方からご意見頂戴し、いわゆる今後の座間市のあるべき姿というものにつきまして忌憚ないご意見をいただきたいとこのように思います。また本日はあわせまして次期総合計画に密接に関連します都市マスタープランというものがございます。これについてもご意見等をいただきたいと考えております。意見交換の後、座間市長より総括的なまとめをさせていただきたいと思っております。また、本日いただきましたご意見につきましては、十分に精査・検討させていただき、計画に反映させ計画案がまとまり次第、第 2 回地域別懇談会を開催させていただく予定です。その中で具体的な内容につきましてご報告もうしあげ再度ご意見等をいただく予定です。よろしく願いいたします。それでは座間市長であります遠藤市長からご挨拶申し上げます。

2. あいさつ【市長によるあいさつ】

皆さんこんばんは。本当にこのお忙しい時間、夕食の時間帯にもかかわらず大勢の皆さんにご参加いただきましてまずもって深く御礼を申し上げたいと存じます。ただいま開会のご挨拶のなかでもご紹介ありましたが、わたしも座間市においては現在、第三次総合計画の計画期間内であるわけでございますが、平成 23 年の 4 月から次期の総合計画、これを策定したうえでその計画にしたがって今後市政について計画的な推進をしていく、こういう時期にきております。第三次の計画については、平成の 3 年にスタートして前期 10 年・後期 10 年全体で 20 年の計画となっておったわけですが、今回の時期総合計画につきましては計画期間をむこう 10 年と期間を区切って計画策定させていただきたいと存じております。それは、私が申すまでもなく本当に変化の激しい時代になっておる、そうした世相になっておるわけでございます。とりわけ私ども日本では少子高齢化社会、この高齢化の進行も急ピッチで進んでおるわけでございます。この人口減少については、人的要因を除き歴史上かつて経験したことのない事態、そうした課題を国全体で抱えていくなかで、私ども基礎自治体、市町村、市民生活に密着した立場でどのような施策をとっていくべきなのか、また安心安全そして末永くここで本当に暮らしてよかったと思えるまちにするために何が必要なのかということについて、どんどんこれはやはり考えをめぐらせてこの計画を策定していかなければならない、このように思うわけでございます。今後の社会情勢について正直予測が出来る人はいないというふうに思います。現在取り組んでいる私ども座間市の第三次総合計画、これについては平成 3 年からということで歩んでおるわけでございますけれども、平成 3 年という頃をぜひ皆さんにも思い出していただきたいと思うわけでございますけれども、ちょうどバブル経済が終焉を迎えて、坂道をごろっと下り始めた頃だったというふうに私は記憶しております。それから以後失われた 10 年と言われた日本経済のバブルの低迷期、これが私ども座間市にとっては第三次総合計画の前期計

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	2/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

画にあたる期間であったわけでございますし、その後の2001年から以降これが後期計画の該当期間であったわけでございます。日本経済がちょうどその谷間に向かうそうした時期にその前のバブルのそれこそピークからちょうど盛りの頃にあまれた計画が第三次総合計画、それに従って私ども座間市の都市基盤整備というのが特に前半の10年間で進められ、この間のやはり経済危機こうしたものを踏まえた中で、後半の10年間というのがその前半期に進めさせていただいたハードウェアの整備、都市基盤整備の部分でできた市債、これを丹念に償還をしながら市民の生活を守る、こうしたこれまでの取り組みであったのではないかとというふうに私自身は次期総合計画の策定にあたって総括をさせていただいております。その20年前に誰が今日のこの事態を想像したでしょうか。また、前期が終了し後期の10年間を考えると、こうした状態になることを誰が想像したでしょうか。この間にそれこそ携帯電話の普及があり、私ども子供の頃、まさかこんな時代がくるとは思ってもいなかったような状況になり、エネルギー危機というものが目前に迫る中、温暖化とういものがあり、どうも電気自動車というものも今後10年のスパンで考えますとおそらく10年後には相当普及しているんじゃないかといったような社会、そしてシステムの変化があらうかと思えます。こうした状況というものをやはりしっかり踏まえながら、今回の次期総合計画については、それらに対して柔軟に対応出来るようにということで、計画全体を5年間で見直しをし、事業計画については2年にいっぺん見直しをしていく、その時代にきちんとマッチしたかたちでこれを考えていく。見直しをするということを私は盛り込ませていただいております。ましてこの厳しい経済情勢、地方公共団体の財政状況というものもご存知のとおり本当に厳しい状況になっております。その厳しい財政の中で必要なものについて有効に活用して、本当に市民のためになるような行政のあり方、そのためにはやはり市民皆さんのお声、そして何が必要なかということについての率直なお考えというものを、やはり常に耳をすませて、傾けて伺いしていかなければいけない、このように思うわけでございます。これまでこの計画についての策定取り組みの中で、先月からでございますけれども、まず各種団体別の懇談会という、地域で活動されております団体の代表者様と分野別に3日間行なわせていただきました。そしてまちづくりフォーラムということで先般サニープレイス座間の多目的室にて、やはり同じような意見集約の場をもたせていただいたわけでございますけれども、色んな角度から色んなお立場から示唆に富んだご意見を沢山頂戴しております。まずは私ども行政の立場で考えておるんでございますけれども、実際にその行政のサービスを受けられている皆さんにとって、そしてこれから座間を共に作っていただくという皆さんにとって今後こうあるべきだということについて、率直な意見をまず伺っておきたい。そのために今回市内6地区に分けて懇談会を開催させていただき、色々な多様なご意見また地域ごとに違ってお考えもあるかと思えます。そうしたものを集約をさせていただいて、それをまた咀嚼をさせていただき、計画の中にテーマの中に盛り込んでいく。さらにそれをまたご提示してご意見を伺っていく、こうしたプロセスを重ねていく中で、計画を形成していきたいというふうに思っておるわけでございます。そうしたことから今日これからまず私どものほうで今取り組んでいることについての概要の説明をさせていただき、その後はどうか皆さんのほうから忌憚のないご意見をここで出していただい、それを受け止めさせていただ

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	3/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

く、それを今後に向けての取り組みの私どもの糧にさせていただき、そうした場に今日はさせていただきたいというふうに思うわけでございます。これから先やはり、地域の中で希薄化したといわれるコミュニティこれについてもやはりきちんと見直しをしながら、ともに手を携えて助け合いながら、そして信頼しあいながら生きていくそしてこのまちに住み続けていく、こうしたやはり基本的な原点にかえった取り組みというのがまさしく必要になろうかと思えます。そうしてはじめて今回の総合計画策定についての取り組みというの、まさに市民協働という言葉、私は難しい言葉あまり使いたくないんですけども、やはりともに考えともに歩んでいただくということのひとつとしてぜひ受け止めていただき、今日のこの会合お願いしたいと思います。時間の関係もでございますのであまり長いこともいけないと思いますので、このあたりで失礼いたしますけれどもどうか忌憚のないご意見よろしくお願いいたしたいと思えます。

3. 趣旨説明

(1) 趣旨説明及び総合計画位置づけ等説明

総合計画の位置づけ、第三次次総合計画と（仮称）第四次総合計画との違いなど、パワーポイントにより政策課長が説明。

ありがとうございました。それではさっそくですけれども次の議題のほうに入ってまいりたいと思えます。まずこれから皆さんのほうに今回の総合計画の関係につきまして、趣旨説明をまずご理解をしていただいて、その後忌憚のないご意見をいただきたいということで私共事務局のほうから趣旨説明につきましてご説明申し上げたいと思えますのでしばらく拝聴いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

政策課長の山本と申します。よろしくお願ひします。本日お忙しい中お越しいただきましてあらためてお礼申し上げます。私のほうから趣旨説明それから今までの取り組み経緯についてご説明させていただきますが、それに先立ちまして資料の確認をさせていただきたいと思えます。まず総合計画の策定の趣旨と枠組みという資料でございます。それから画面を印刷したものの、「都市マスタープラン」とはという1枚の資料、それからニュースレター1号から2号3号と、全部で3部でございます。過不足ございませんでしょうか。なければ趣旨説明を始めさせていただきますと思えます。総合計画でございますが、地方自治法という法律で策定することが義務付けられているところでございます。本市では昭和47年に座間市総合計画を策定しており、2番目の総合計画としまして55年から平成2年までの間、座間市新総合計画を作成しております、そして今現在計画期間中でありまして第三次総合計画を平成3年に定めまして、22年までの計画となっております。その第三次総合計画も残すところあと1年半というなかで新しい総合計画を策定していくということでございます。新しい総合計画策定にあたりましては市民の皆様方からご意見等を十分にお伺いしたなかでそれらを計画に反映することで総合計画が市民の皆さんと共有する目的として定め、1人でも多くの市民の方々がこの座間に住んでよかつたと思えるような計画にしたいという考えであります。今までの取り組みについて簡単にご説明させていただきたいと思えます。本年3月には小学生児童を対象に私の座間というテー

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】		頁	4/28
日時	平成 21 年 10 月 22 日(木)	場所	座間市公民館	

マで絵画コンクールを実施させていただきました。500 を超える応募がありましてそれぞれふるさと座間を想う気持ちに溢れる作品ばかりでございました。また同月には次期総合計画をどのような方針のもとに作成するのかを明らかにする策定方針を策定させていただきました。4 月 18 日には次期総合計画策定のキックオフとして、まちづくりシンポジウムを開催させていただきました。125 名の市民の皆さんの参加をいただいております。それから 8 月 20 日には座間子ども議会を開催させていただきました。座間の未来に向けたまちづくりについて子どもの視点から提言や質問をいただきまして、児童生徒が今後の目標として座間子ども議会宣言というものを採択し、発表を行いました。また 8 月から 9 月につきましては皆様のお手元にも届いているかと思ひます、葉書のようなかたちで、あなたが思い描く 12 年後の座間というようなテーマで皆様から一言メッセージを募集いたしております。現在のところおよそ 2000 件のご意見等をいただいている状況でございます。そして 9 月の 28、29、30 日の間、各種団体懇談会を開催させていただきました。健康福祉、生活環境、産業労働、それから教育文化というような分野別に、開催させていただいております。それから 10 月 4 日には、まちづくりフォーラムをサニープレイスの方で開催させていただいております。これにつきましては、65 名の市民の方に、ご参加いただきました。それから本日も含めまして 14 日から 22 日までの間、6 箇所の会場に分けて地域別懇談会を開催させていただいております。これにつきましては、冒頭お話ありましたように、第 1 回目として開催させていただくもので、2 回目としましては、来年、案がまとまったような段階で、また皆様方からご意見等を頂きたい、そのように考えております。また、10 月 30 日から 11 月 12 日にかけては市民まちづくり討議会というものを開催予定でございます。これはなかなかご発言機会がない方や市政に関わりがない方々の意見をいただきたいということでございまして、2000 人の方に無作為でご案内をさしあげて、参加いただける方にご意見を頂戴しようとする新しい試みでございます。市民の方々に関係することについては以上でございますが、いずれも市のホームページ等で詳細を掲載しておりますのでご覧になっていただければと思います。また本日お配りした次期総合計画のニュースレターにつきましても、これもホームページ等で紹介さしあげております。また自治会からも回覧をさせていただいておりますのでご覧になっていらっしゃる方もいらっしゃるかと思います。今後も広報座間やニュースレターなどで総合計画策定にあたっての進捗についてその都度お知らせしていきたいと思ひますのでよろしくお願いいたします。それでは本日配布さしあげました資料についてのご説明に移らせていただきたいと思います。まず 1 ページ目の策定の趣旨でございます。これにつきましては、総合計画の定義と経済環境など市を取り巻く環境の変化などに対応する計画をしなければならない、それには何が重要かというようなことを記載しています。平成 4 年にはバブル経済の終焉を迎えた、その後 10 年については失われた 10 年と言われているということでございます。平成 12 年には地方分権一括法というようなことで分権の礎となる法律が制定されております。それから平成 17 年には日本の総人口の減少が、少子高齢化社会の到来、三位一体の改革による財政の硬直化、これは直接座間市には関係ございませんが平成の大合併ということで平成 11 年 3 月現在では 3232 自治体が、来年 3 月には 1753 自治体になろうかというような変化がございます。資料には記載してございませんがその他にも

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】		頁	5/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館	

平成12年には介護保険法、平成20年には後期高齢者医療制度が導入されました。本市の特徴・特別なものとして平成7年には自動車関係企業の閉鎖：生産レーンの閉鎖というような大きな出来事がありました。そう状況にも適確に対応した即応性の高い計画を策定しなければならないということを記載しております。次に計画構成期間でございますけれども、このような策定趣旨を踏まえて、次期総合計画の計画構成期間などを記載してございます。現在の第三次総合計画は20年間でしたが、次期計画ではこれを10年間とする、これは先ほどの時代の変化を踏まえるための変更でございます。また現在の第三次総合計画では基本構想と基本計画、実施計画という三層の計画でございました。次期総合計画ではわかりやすくするために基本構想と実施計画という2層にいたします。なお、実施計画は4年間で2年ごとに見直していくというような考えでおります。また新しい取り組みとして、より具体的に重点的に取り組む計画としまして戦略プロジェクトを策定し、より目的や成果を明確にして検証できるような戦略プロジェクトを導入しようと考えております。次に2ページでございますが、座間市の人口、現在までの推移を示してございますが、市内人口につきましては、平成47年までの推計人口を記載してございます。現在微増を続けている状況でございますけれどもまもなくそれも終焉し、人口が減少していきたくらうと世帯数については横ばいですが、年齢別の将来推移でございますが、座間市において平成18年には老年人口と年少人口の逆転現象が起っております。高齢化率が人口の21%を超えると超高齢化社会と言われております、座間は25年にはその超高齢化社会に入っていく、そういう推計をさせていただいております。こう見ますと高齢化が進んでいくということは明白であろうかと思いますが、ここでちょっと座間市の特色といたしましてお話させていただくと国勢調査ベースで、783都市中、生産年齢人口というのが、27番目ということで全国でみれば多い状態にあります。老年人口についても下から数えて45番目、若い都市という特性をもっているということになります。3ページ目の土地利用につきましては、地域の17.58㎢のうち市街化区域が71.3%を占め、県央地域では大和市に次いで2番目に市街化区域率が高い。そして住宅・商業・業務用用地が増加しており、工業・農業用地が減少しているとそういった現況を記載してございます。次の4ページから5ページにつきましては、分野別の特性と課題を記載してございます。①としまして健康・福祉分野、②としまして市民参画・コミュニティ、③としまして教育・生涯学習・スポーツ、④としまして都市基盤整備、⑤としまして環境・廃棄物、⑥としまして産業、⑦としまして行政経営、以上の分野の特性と課題を記載してございます。内容につきましては記載の通りですので省略させていただきます。次の6ページ目でございますが、ここでは社会潮流を記載してございます。これにつきましては人口減少社会、高齢化社会の進展、地方分権から地域主権社会へ、ソーシャルマネジメントの時代へ、低炭素社会の具体化、情報化の進展、社会と経済・雇用構造の変化、グローバル化とフラット化の進展、安心・安全の確保、教育環境の変化と教育改革、そのような社会潮流をまとめてございます。最後に7ページでございますけれども、実効性のある計画に向けてとして3段目に記載してございますけれども、市民の皆様が共通して目指すことが出来る将来都市像や市民生活像を明らかにし、市役所と市民との役割分担を明らかにする計画として策定すると記載してございます。最後にこのページ1枚でございますが、ここに示させていただいております

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	6/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

す。1 としまして、健康への取組み 安心 健やかなまち、2 番目としまして、自立 めくもり 支えあうまち、3 番目としまして、共に考え 共に歩む 安心のまち、4 番目としまして、豊かな心 明日への希望 育みあうまち、5 番目としまして、安全 憩い 快適なまち、6 番目としまして、おいしい水 安全な水 衛生的なまち、7 番目としまして、環境との調和 暮らしの活力 持続可能なまち、8 番目としまして、未来志向 的確な判断 確かな希望をいただける経営、9 番目としまして、市民基点 柔軟な発想と行動 信頼される市役所というものを将来都市像の案として掲げさせていただいております。今後この将来都市像を市民との皆様のご意見等を伺いながらまとめ、さらにこの将来都市像を実現するための市民生活像はどうあるべきでどのように実現していくかということは今後明らかにしていきたいと考えております。以上で私の説明を終わりにしたいと思います。

(2) 都市計画マスタープラン趣旨説明

都市計画マスタープランの位置づけ、改定の目的など、パワーポイントにより都市計画課長が説明。

つきまして総合計画と非常に密接に関係してございます都市計画マスタープランの関係につきまして都市計画課長のほうからご説明さしあげます。

はじめまして都市計画課長の森田です。どうぞよろしくお願いたします。本日はご多忙のところご出席いただきましてあらためてお礼申し上げます。それでは私のほうから都市マスタープランについて趣旨説明をさせていただきます。それでは私のほうから法律的な位置づけも含めこちらのお手元に配布させていただきました都市マスタープランとは、という資料に基づきましてご説明させていただきたいと思っております。それでは 1 点目の都市マスタープランとは、からご説明させていただきたいと思っております。各市町村が作成します都市マスタープランは市町村の都市計画に関する基本的な方針として都市計画法第 18 条の 2 に定められている法的な計画になっています。都市計画の内容としましてはここに書いてありますとおり、土地利用の規制誘導、道路や公園等の整備、自然環境の保全などまちづくりをするうえでの基本的な計画となります。計画の策定にあたりましては総合計画と則することが定められており、また市民等の意見を反映させることも併せて求められております。座間市都市マスタープランを概念図で示しますとこのような図となります。国・県の計画、市の計画これらを受けて座間市都市マスタープランを作成します。これに伴いまして都市計画の分野別計画、具体的な都市計画としての決定事項が都市マスタープランによって定められます。次に 2 点目としまして座間市都市マスタープラン改定の目的としましては、現在マスタープランは、平成 13 年に策定させていただきました約 8 年が経過しております。この間都市計画法の改正や景観法の制定、総合計画の説明のなかでも触れられておりました少子高齢化の進展や経済情勢、激変する社会潮流等このような背景を踏まえ現計画を検証し、検証した上で時代に即した計画とするための改定となります。なお、計画の策定に当りましては、関連計画との整合に充分配慮して行っております。

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	7/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

3点目の次期計画の計画期間ですが目標年次としましては、総合計画と同じ平成32年度を予定しております。4点目の座間市都市マスタープランの構成としましては市内全域を対象とした全体構想と市民に身近な地域を対象とした地域別構想、及びこれらを実現するための、実現化方策を定めさせていただきたいと思っております。全体構想としましては将来目標、都市像の設定をさせていただき都市づくりの方針を定めさせていただきます。地域別構想としましてはおのおの地域の都市づくりの方針を定めさせていただきたいと思っております。これらの構想を踏まえまして実現化方策として都市マスタープランを推進するための方策を定めさせていただきます。なお、都市マスタープランは総合計画と密接に関係しておりますので次期総合計画と連携をとりながら進めさせていただきたいと思っております。以上が都市マスタープラン改定の趣旨説明となりますが、いずれにしても各種団体との懇談会や今後予定されております各種市民参加の過程で幅広い市民の皆様からのご意見等をお聞かせいただき、都市マスタープランへ反映させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。以上で私の説明は終わります。ありがとうございました。

4. 意見交換

【市役所】

それではこれより意見交換に入りたいと思っております。意見交換につきましては、限られた時間の中で懇談を効率良く円滑に進めるために、総合計画策定に経験とノウハウを持ちますパシフィックコンサルタンツに進行の支援を今回お願いしております。ご了承願いたいというふうに思っております。それではよろしくお願いいたします。

【コンサルタント】

こんばんは。ただ今ご紹介あずかりましたパシフィックコンサルタンツの齋藤と申します。今ご紹介の通り皆さんが、多くの皆さんが参加されてますので皆さんが出来るだけ多くご発言いただきますよう、そしてそれに対して市の方が円滑にお答えできるように仲介役といえますか、進行役をさせていただきたいと思っております。ですので私どもが今日のお話を聞いて持ち帰って私どもが計画を作ってくる、そういうことはございませんのでご安心してご発言いただきたいと思います。それでは座ってお願いします。それでは今のお話ありましたが、総合計画の将来像、まちづくりのテーマなどのご説明がありました。そしてこれから都市マスタープランというのを作っていくということで、これからの段階で皆さんから将来へ向けての色々なご意見、もしくはその将来像に向けて現状の課題や問題、これを解決しないといけないんじゃないかとそういう率直なご意見を今日は数多くいただきたいと思っております。ですので一問一答での進行とはいきませんので、少し皆さんからご意見をいただいて途中でご発言市から回答いただくというふうな進め方にしたいと思っております。それでは時間もございませんので、どうぞ皆さん積極的にご発言いただきたいと思います。ただ数多くご発言、意見ある方は1つ2つにまずまとめまして、その後他の方がご発言いただいた後にまたご発言いただくようなかた

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	8/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

ちで、できるだけ多くの方に多くのご発言をいただきたいと思いますので、進行のほうよろしくお願いたします。それではまず最初に口火を切っていただける方いらっしゃいましたらよろしくお願いたしますが、いかがでしょうか。それでは議事録の関係でマイクが届きますので、それからお願いたします。

【参加者】

どうも皆さんこんにちは。今日は市長さんこういう場を与えて下さって本当にありがとうございます。入谷に住んでから数年経ちます〇〇と申します。私は座間が大好きです。人たちもすごく魅力的ですし、景色もすごくいいしなんといっても緑のオアシスの谷戸山公園がありまして、そこで皆さんすごく楽しく使っております。でもちょっとその先にある座間キャンプがすごく私にとっては、心配の種なんです。住んでたときはあまり感じなかったんですけど、このあいだジャズフェスティバルに空砲騒ぎに皆さん驚いたことと思います。朝から日に4回か5回くらい富士の演習場の空砲みたいなものが鳴って、私はすごく不安ですごく気持ちが精神がすごく落ち着かなかったです。やはり座間のまちを考える上で基地の存在は無視できないと思います。策定計画にはあまりうたわれていないですけれども、やはり基地があることによって将来座間がマイナスのイメージにならないように何かしてほしいなと思います。今後やはり経済状態というか、国政状態も本当に変わっていきますなかで、しっかりと国政レベルで市長さんが提案して下さったかたちで基地があることによって本当に私たちがいいイメージを与えられるようにしてほしいと思います。ぜひ10年後は基地のないまちを目指してほしいと思います。以上です。

【コンサルタント】

ありがとうございます。どうでしょう、このご意見でもいいでしょうし、他のご意見でも結構ですので、まずどんどん出していきたいと思いますが、次の方、どうぞ遠慮なくせっかくの機会ですのでご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。普段の色々な問題意識とか、課題であったり皆さんお持ちだと思いますのでぜひともせっかくの機会ですから、どうぞ遠慮なくお願したいと思います。お願します今マイクがまいます少々お待ち下さい。

【参加者】

入谷4丁目に住んでおります〇〇と申します。市長もだいぶお疲れだと思んですけど、連日連夜。この資料の4ページにあります市民参加コミュニティという問題で、昨年座間市市民サポートセンターが出来たわけですが、これ最後のところどたばたと半年繰り上がって開設されたいきさつがあつて、非常に中途半端、施設が非常に中途半端じゃないかというふうに意識しております。というのは、おそらく社協の福祉センター3階の片隅にあつて本当に市民の方が認知してるのかどうかというところなんです。やっぱりあれを機能的に使うのであれば、市役所の1階の情報公開の場所がありますね、あそこをそのサポートセンターにしたかたちで、

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	9/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

確かに土日の開庁施設の問題があって、若干市役所の建物に変化をもたらさないといけないと思うんですが、やはり市役所の1階市民ロビーがあって、市民サポートセンターがあって、市民が自由に行き帰るという環境を作らないと、せっかく市民サポートセンターが出来たのに上手く機能しないんじゃないかということで、ぜひともこの総合計画の中で市民の役に立つものを作っていただければというふうに考えております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。どうぞせっかくのお時間ですので、皆様のご意見をお待ちしておりますけれども、いかがでしょうか。それでは窓側の方お願いいたします。

【参加者】

入谷5丁目の〇〇と申します。質問に近いんですけど、これまで今座間の現在の最後のページになっていると思うんですけど、第三次の計画というのがあって、座間市ってどういう市を想定して作られていて、それがどのぐらい実現できていて、そして5ページにあるようなこの期間に色んな、当時予測ができなかったような情勢変化があったと思うので、そのことが例えばバブル経済の終焉によって計画そのものが一体どんなふうに変ったのかとか、あるいは三位一体の改革があったことによって挫折したことが何があったのかというようなあたりの、別にお答えいただかなくていいんですけど、示していただくと、これから我々何を指したらいのかと、どうもこの計画をみてますと、もちろん大切なことなんですけど将来座間市をどうしようかという視点にだけあって、現在のスタンディングポイントがどうなってるのかというのに関してはデータあまりないというのが1点です。それからもう1つは、人口動態等はあるんですが、これは年齢だけの話になって、自治体あるいは地域としての活力のひとつはどうやって収入を得てるかというその部分で座間市の特徴というのが、一体その仕事あるいは収入を得る場が市内にどれだけ、住んでる方々の市内で活動してる部分が何%で、市から外へ収入を得るために働きに行ってると思います、そういう方々が一体就業年齢といいますか、15歳から65歳ぐらいまでの人たちの中でどのぐらいどういう比率になってるかというデータもないので、もちろん市の大切なことは我々はそうは言っても市に籍を持ち住居を持って暮らしているわけですから、そういうことに関する生活のインフラというのはもちろん市に頼ってるんですが、それを実現するために得ている収入というのは一体どういう、地域別になってるのかなというのが先ほどのお話を伺ってちょっとわからない部分として。以上です。

【コンサルタント】

ありがとうございました。ご質問お2つほどでしたね。その他どうでしょうか。もしあれでしたら一度今のご質問なり、今のお話に対してお答えいただいたほうが皆さんご議論も活発になるかもしれませんので、そのほうがよろしいでしょうか。よろしいですか皆さん少しお時間をいただきますけど。今までの点で今の時点でお話し出来るような点ございましたら、市のほうよろしく願いいたします。

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	10/28
日時	平成 21 年 10 月 22 日(木)	場所	座間市公民館

【市役所】

こんばんは。企画財政部長の宮代と申します。私のほうからは何点かご意見いただきました。まず 1 つめは今の第三次の総合計画についてどう評価をしたか、こういうことだと思います。これにつきましては私のほうから具体的な数字は申し上げることが出来ませんけれども、今回の次期総合計画策定にあたって、今の総合計画これについて部あるいは課内で徹底的に課題の抽出をいたしました。その課題を抽出してさらにそれを分析したうえで、今回皆様のほうにお示しをいただきました。具体的な表現ではありませんが、9 つの将来像、テーマということで述べさせていただいております。そういうことで基本的にはやはり総合計画というものは過去それから今の総合計画の洗い直しを十分にしないといけない部分もございます。それから総合計画ですけれども具体的な内容を見だすとやはり継続的な事業は多いと思います。9 割近くは今ある事業の継続だろうとこういうふうに私も考えております。ただ、その事業の意向についてはやはりもう一度チェックをして効率的な運営ということですべきだと、こういうことだと考えておりますので、これについては具体的な数字は申し上げることが出来ませんけれども経過としてはそういうことですのでご理解いただきたいと思っております。それからその関係でバブルの崩壊あるいは三位一体というような話がありました。特に第三次の総合計画につきましては、先ほど市長から申し上げましたように前半の 10 年についてはまさにバブルの絶頂期から、バブルの崩壊ということで天国から地獄をみたわけですね。したがってこの 10 年は私どものほうは失われた 10 年ということで、特に皆様ご察知の通り核作り、新庁舎を含めた核作りを実は手がけたところでございます。これにつきましては当然国、県の借入れをしながら庁舎建設をしたわけですが、これについては特に意を持って、参考に申し上げますと当然市の財政については国、県からの借入れをして、事業執行しなければいけない、出来ないという部分がございます。今の市に残されております借入れに対する償還の額、若干申し上げますと平成 8 年がいちばんピークでございました。これが約 380 億という残高になっております。20 年度の末でこれが約 260 億程度。ざっと差し引きしますと 120 億程度、これは核作りに限らず他の市債もありますけれども、償還をしております。したがって今言いました、特に市政の関係についてはこれまで以上でもって積極的に取り組んでという部分がございます。それから三位一体の関係でお話がありましたけれども、これも残念ながら座間市にとっては三位一体の改革で市に当然税源委譲が期待できるんですが十分ではないと私どもは考えております。この数字も考え方によって違うんですけれども、私のほうで試算した中ではざっと 20 億からの差が不足といいますか財源が減っている、ということでやはり今後はこの三位一体の改革は結構なんですけれども、やはり地方の実態にあった財源の委譲これが今後は必要になってくると思いますから、これについては特に注意を払って取り組んでまいりたいと、このように思います。それから人口動態の関係でご質問がありました。確かに総合計画を策定するにあたっては、特にこの人口というのは基本的な要素だと考えております。当然ながら少子あるいは高齢化というなかで、人口が先ほど申し上げましたように減少傾向のなかでやはり今言いました地域別、あるいは年齢別の人口の推移というものを今回お示したなかでは、考慮したなかで検

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	11/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

討した推移ということですので、そのへんひとつご理解をいただきたいと思います。特に私のほうから細かい数字は今認識しておりませんが、いずれにしても人口減少の中で計画を作らなければならないところで認識をしております。私のほうからは以上です。

【市役所】

秘書室長の今福でございます。キャンプのご質問いただきましたので、ご意見につきまして私の方で受けとめをさせていただきますけれども、1点だけ花火の空砲とおっしゃいましたけれども、その関係でお答えをさせていただきます。ジャズフェスティバルのときに上がった花火の関係ですね。ジャズフェスティバル、音そのものもひとつうるさいという近隣の方の意見もありましたけれども、そのときに空砲といいますか、花火がだいぶ間隔を短く鳴りました。私もそれを認識をいたしまして、その日のうちにキャンプに行きまして、担当者といいますか、その方を通じて、司令官宛にどうしてそういう音がうるさいというか、皆さん知らないわけですから何の音かというのもわからない。音がうるさいというのは当然、市のほうもかなりお電話苦情等もいただいておりますので、私が基地のほうへ伺いまして、その状況を聞いて、予定としては日曜日あげる予定だったらしいんですが、それはぜひやめてくれということで、やめさせたという経過もございます。いずれにしてもキャンプで騒音といいますか、そういったこととか近隣の方に迷惑をかけないようにキャンプのほうとしては、周りの方と交流といいますか、住民への理解を深めるという行事でやっているのに、それが逆効果になってしまうよとそういうような意味でも申し上げましたので、これから十分注意するというところでございましたので、お話をさせていただきました。よろしく申し上げます。

【コンサルタント】

今前半お話ご質問があった件につきまして全てではないと思いますが、今の段階でお答え出来るということでした。あとは市民サポートセンターの件がありましたか。

【市役所】

市民部の部長の清田と申します。市民サポートセンターのお話がありました。確か去年の9月に設立されてここで1年が過ぎました。そういう部分で私どもも色々な角度から1年間の部分を消化、成果を研究していきたいと思います。今後の計画の中でのということでご意見として承りさせていただきますと思います。よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

【コンサルタント】

追加補足、ご質問などもしくはその他の件も含めて実態、現状の問題点とか今後こういう課題があるだろうとか、色々あると思ひますので忌憚のないご意見のほうせつかくの機会ですからよろしくお願ひいたしたいと思ひます。それでは前の方お願ひします。

【参加者】

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】		頁	12/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館	

入谷1丁目の〇〇です。勉強ながらちょっとお聞きしたいです。先ほど財政の方から市の今の市庁舎建設の件等で、平成8年380億の予算があったということで、平成20年に260億の残高になりましたよと、これは12年間簡単に言えば1年間に10億円返したということになるんですが、そういうこと考えると260億というと26年ぐらいかかるのかなと素人的に考えるんですが、このへん全く我々素人なんですが、もしなかなか財政部長さんですか課長さんですか個人的な見解になるかわからないけど、もしアウトラインでも今後の推移についていただければまた色んなマスタープランその他考えるにあたって財政も当然問題になるんでありましょうで、参考になるかと思うんです。私の算数でいいのかどうか、今まで1年間10億返した、260億あるとあと26年間かかると、20年ですから、こういう考え方でいいのかどうか、あるいはもし将来の財政の見通しがある程度つくつとすれば、これは5年間なり10年間でやるよというように全くマスタープランじゃないけどその観点あれば、示していただけるようなお考えあれば示していただけると、市民がこの計画を作る場合に当然お金が必要なので非常にいいかと思えます。お聞きできれば、それから最初からキャンプの問題が重大な問題になってるんですが、今日もある人とちょっと話してるんですが、座間市としては仮にキャンプが3年なり5年後に返ってきたらその跡地はどういう使用という計画が今どんな具合にあるのかなと、お茶のみ話をやったんですが、この辺についても今あるならあると、どういうふうになってるか、こういう問題について市としてはこのマスタープランや何かの中に座間市が仮に5年後に全面返還されたとしたら、50年でもいいんですが、こういうふうなキャンプの跡地のマスタープランを作りたいと、先の話ですが、お答え願えればと。それからキャンプの問題で空砲というの私もびっくりしたんですが、1時間ごとに10時から3時まで相当でかい音で、何か爆発したんじゃないかというような近所の方が心配しておりましたが、これは早速市の方言って下さって、そういう困るよと、こう言ったら確かに中止されました。これは非常にいいことだと思うんですね。それでキャンプが米軍どこでもそうなんですが、日本の自衛隊もそうだと思うんですが非常に基地公開、あるいは自分たちの姿を見てもらおうということで公開をどんどんやっていると、もう皆さんご存知のように各紙新聞で発表されておりますが、11月14日の土曜日ですかまたその鉄砲を見せたり、飛行機を見せたり、戦車はないのかな、軍用車を見せると、それで私たちはこういう武器を持ってるんだということを皆さんに知っていただいて理解を得たいと、司令官が各新聞に発表して載っておりますが、例えばこういう場合も、私写真撮りたいなと写真機持ってたと、入り口で写真機は駄目だと、持っていないのか入っていいのか撮っちゃいけないのか、その辺も問題があるんじゃないかと思うんです。これは市のほうも然るべき準備をされてるかと思うんですが、こう場合にも本当にもし友好を願うんだら今度の11月14日のキャンプの公開についてはこういう制限があるよと、こういうものは携行禁止だよとこういうことは写真は撮っちゃいけませんとかじゃないと無用なトラブルが、またさっきの空砲じゃないけど彼らが親善のためにやるという逆の結果も出ると思うので、この辺市の担当の方、私の私見で話すつとすれば、米軍が計画を対市民に向けて公開する場合にはどういうスケジュールでどういう内容で、例えば音声にしたら何デシベルぐらいの音声で放送するんだとか、大砲を撃つつとすればこのぐらいの音が出るんだと、これはあえて言えば日本の法律にはこれは

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	13/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

許されていると、音量からいってというようなことまで含めて実施計画を市当局に提出すると、市当局もこれを検証してこれはまずいぞと、日本の法律に触れるぞというようなことがあれば率直に事前に米軍に申し入れて、市民の迷惑にならないようにトラブルにならないようにすることが必要なと思うんです。それが11月14日そういうときも含めて公開するということが各紙一斉に報道されておりますので、相当興味を、私自身も写真機持って撮りに行きたいなという感じはあるんですが、写真機持ってくの駄目だと言われたら困るというのはあるんですが、この辺もどういうふうに市民にPRしていくか、新聞で見た限りじゃそのへんが確かじゃないので、市のほうで工夫していただいて私の考えでは事前に総計画を米軍のほうからもらって、こういう制限があるというようなこともやって、それ以上詳しいことは新聞だからわからないんですが、とにかく市民に迷惑かからないように、せっかく行って逆の結果が出ないようなことをご配慮願いたいと、これはずっと今後米軍基地がある限り続いていくわけで、ぜひご配慮お願いいたしたいと思っております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。せっかくですのでまたお答えいただく前に何人かの方に色々ご意見なり、もしくは総合計画に関しての将来像であったり土地利用だったり都市マスタープランだったり、そういうあたりについてのご発言ご意見などございましたらお願いしたいと思います。どうでしょう、それでは後ろの方お願いいたします。

【参加者】

こんばんは。私西栗原からきた〇〇と申します。よろしくお願いたします。こここのところ自分が病気がないからいいようなものですが、座間に大きな病院がないんじゃないかと思うんです。昔は立野台の病院、中央病院というようなありましたけれどそこも無くなりまして、個人の病院というのもずいぶん少なくなっているんですね。だから救急車で行ってもどこに連れられて行くかというのが心配になるんです。自分が行くからじゃなくて市民はそう思っているんじゃないかと思うんです。だから市民病院というのは考えていらっしゃるかそれを聞きたいです。それともう1つは座間のまちおこしというのをどういうふうに考えていらっしゃるか、それも聞きたいです。以上です。

【コンサルタント】

ありがとうございます。最後まちおこしについてできればどういった範疇のお話か、まちおこしかなり広いお話ですので、どの点からというのがあると思いますが。

【参加者】

まちおこしと漠然と言いましたけど、この間のひまわりフェスティバルとかというのが日産でございました。まちのほうではひまわりというのをすごく取り上げてやっていらっしゃるんですけど、お酒とかおまんじゅうとかやってらっしゃいますけど、花が咲いているときはどういふ

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	14/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

うになさってるのかよくわかりません。東地区のセンターのほうのあすなろ大学というのに所属しているんです。そこでひまわりについてやってみないかと言われて私も長く座間にお世話になってますけど、ひまわり特に見に行くこともないし、ですからもっとまちおこしというのですか、色んな2、3日前まで静岡のほうでそういう昔のなんていうんですか、昔のものを掘り起こして皆さん伝えようじゃないかということがテレビで放映されたんです。それで座間でも、こんなこといと申し訳ないんですけど、座間の方はやる気が無いんですよ。ひまわりにも何でも、もっと何かみんなでやろうじゃないかという気持ちが無いんじゃないかと思うんです。もっと座間を自分たちのまちをもっと活力あるまちにしていきたいと思うんです。生意気言って申し訳ないです。

【コンサルタント】

ありがとうございます。広い分野に関わるようなお話かもしれませんので、適宜お答えの方は準備いただきたいと思います。どうでしょう、せっかくですからその他の方々も含めてどうぞご遠慮なくどうぞお願いします。

【参加者】

1つ、私4丁目なんですけど、立野台地区でこれをやらないというのはどうなんだろうと、この時間帯立野台の人たち、あそこ高齢化が進んでますので、ここまで降りて来るといのはなかなか難しいんじゃないかなというのが1つあります。あとこのヒアリングの選定の場所が、4丁目から来るのも結構大変なんです。夜道襲われるんじゃないかと思って、そんなことでちょっと立野台の人たちの意見というのがなかなかぶれちゃうんじゃないかなというのがひとつ心配しております。それで前回団体のヒアリングのときちょっと遮られてしましまして、言えなかったんですが、先ほど市の財政のお話がありまして、財政状態は極めてよくない、県・市の市街地の財政状態のランキング見ても座間市はかなり厳しいランクに入ってると思うんです。ですから物をねだるといことは市民としてももう出来ないと思ってるんです。市のほうももう物を与えるということも出来ない、そうすると何かというと、やはり人的なインフラの整備ということをして市民の力でやってもらおうと、市民も市に依存するといことはかなり厳しくなってきた。今この超高齢化社会になるということは、ほとんど年金の収入しかないということになってくるわけですから、市の財政も厳しい、そうするとやっぱり市は市民に対して今はやりの言葉でいうと協働ですね、協働というかたちで市民を巻き込んだかたちで市政に参画してもらおうと、そういうビジョンを出していかないかぎり、座間市はもたないんじゃないかというふうに私は考えてるんです。今市は色々やっているんですが、単発で結局ネットワーク化が出来ていない。例えば私防災のほうで相当市とお世話になってるわけなんですけど、防災リーダーの研修をやると、自治会に対して県の防災センターに連れてってやる、ところがそれ終わるとそのまま。自治会のほうの役員変わるとそれはそれでうち捨てられる。それをやっぱり上手くネットワーク化して、ひとつの力にしていけないと駄目なんじゃないかということだ思うんです。それで防災で色々活動していてやはり非常に不安になってくる。市民の方はおそらく

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	15/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

何かあったときは市が面倒見てくれると思ってるんですね。先日も栗原小学校で避難所の宿泊訓練をやったんですが、そのアンケートを見て、市のほうで提出しておりますが、避難所が市の職員が並んでいらっしゃるって迎えてくれるという認識なんですね、だけど市の職員の方はそんな教育は誰も受けてない。おそらくばたばたになってしまう。このあたりはやはり今回の4次の計画の中できちんと位置づけて、市民も積極的に支援を受けるという何か方策をとらないと難しいんじゃないかと。それからもう1つ市へ色々お願い事になるんですが、特に教育長にお願いしとくんですが、5階はどうも別世界に感じるんです。お話をもって行って5階のいわゆる教育部でお話をしますと、全てそれは下の話ですねというので最初なんだかわからなかったんです。下の話それはよく聞いてると、教育部は別だというような感覚でいらっしゃる。教育部だけ何か遊離しているような感じがしてならないんです。1つは避難所のことで場所をお借りしたいと行くとそれは安全対策課ですよ、学校の現場ですよというかたちで全て下へまわってしまう。だけど学校長は施設管理者ですから、災害があれば学校長の責任においてやらなきゃならない、それは当然教育部、教育管理課がコントロールしないとまずいことだろうと思うんですが、なんとなく超越していて話がかみ合わないということがありますので、そのへのいわゆるストック型行政いわゆる縦割り行政というものをやっぱり横で繋がっていただく、ということだと思っております。以上です。

【コンサルタント】

ありがとうございました。どうでしょうか、それでは窓側の方少々お待ち下さい。

【参加者】

入谷4丁目の〇〇と申します。今日今回配られた策定の趣旨と枠組みというこの書き物大変わかりやすく、上手に作られてやはりコンサルタントの方の手がきちっと入っているなと気がしました。ただここでひとつ表現、ページ数の問題もあるんですけど、評価方法についてのコメント、アプローチが少し読みにくいと思います。例えば前回のタイトルが将来像であり、みなぎる活力、やすらぎが調和するときめきのまちというのを一体どのように評価されたら達成度が表現されるのでしょうか。一方でそれぞれの企業ですとどんどん業種を増やし、利益をなんぼというアプローチをするんですけども、行政で言えば全部の部門の方たちのテーマは全部やらなきゃいけない。強弱はよそなみという表現であれば強弱のつけようがないんだけど、目的をセットして最重要課題を選び、予算編成を指針にしと、しながらもそこがその表現方法と評価のカウント法がどうもよくわからない。前回の表現の長期計画じゃ困りますと、こういうことだけ申し上げさせて下さい。以上です。

【コンサルタント】

ありがとうございました。どうでしょう途中でよろしいですか、市のほうからお答えを願いたいと思います。

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	16/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

【市役所】

副市長の小俣でございます。いくつかご提案等いただいたわけでございます。先ほどのご答弁も含めて少し整理をさせていただきましたので、お話をさせていただきたいと思っております。いちばん財政のことをご心配、多くの方いただいていると思っております。そのお答えとして、市債のことだけをお答えしてしまいましてご心配に輪をかけたような話になってしまいましたけれども。ちょうど総務省で、年度は18年度というふうなことで、国ですから集計するに古い資料なんですけれども、例えば一言で財政状況という、財政力指数というものがあるんですね、これを見ても、全国で色んな話題があるご意見もありましたけれども、市の中で778市をつかまえて、そこでわが市がどのぐらいにあるかというランクだけのお話を今日はさせていただきましたけれども、778市のうちの126位こういう座間市は状況でございまして、非常に財政は厳しいんですけれども全く全国のあれから見ますと、悲観的な部分ではないかなと思っております。さらに今企画財政部長がお答えした公債費、いわゆる借金といいますこれの比率を示す公債費比率と呼んでますけれども、これをそのデータで見ても、やはり778市のうちの座間市は235番目ということで、上のほうではありませんけれども、真ん中より上だということになってございます。それからやっぱりどこかで税収というものを考えていかなくちゃいけない。他の地区でも色々出てました。やはり高齢化高齢化といっても入りの部分をやっぱり考えていかなくちゃいけない、新しい生産だとかそういうところを見つけていくと。さっきもお話がございましたように、人口動態のお話、どなたか言っていただきましたね、地域別にどうなんだと細かい部分が今日はなしにしまして、やっぱり同じ資料の総務省関係で労働力人口というのがあります、これどのぐらいなのかと言いますとやはり783市のうちの座間市が441番ということで、真ん中よりちょっと下というような感じでございます。ご心配の部分にもちょっといい資料がありましたのでご紹介しますと、自分の市で自営をしている就業者数、ですから座間市の人が座間市内で働いてる。まさにご質問の話だったわけですが、これ見ても783のうちの722番すなわち低い方ワーストのほうになってきているということです。ご承知のように皆さんもそうだと思いますが、座間市にお住まいになって働いている時期は多分横浜川崎とか東京とかそういうところに働きに出かけていられて、座間市でお休みになっている、こういういわゆるベッドタウンだったわけですから、こういうパターンの中でも最後のまとめのところでも市長から多少明るいニュースも含めて、工業の関係お話をいただきますけれども、実態としてはそういう状況でございまして。それから財政状況も含めて前期のこの計画、第三次の計画ですね、これを検証するというお話もどなたか出てました。これもやっぱり部長からも話がありましたように、これはしっかり検証して次のことを考える場合当然それは必要なことですので、今やっております。ただあと1年半残してますから、最終のしっかりしたものについては少し時期がずれるかなと思っておりますけれども、そういうことについては指示をしているところでございます。なお毎年の出来具合といいますか、これは制度的にやりますから決算しております。そういうなかでどれだけ達成したかということの検証をしながら広報などで市民にお知らせをしていくということでございます。ただ、こういう計画を議論する場合に、毎年毎年のことにはなかなかわかりにくい、したがってある程度の節目でもう一回見直していく、こうい

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	17/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

う作業も必要だというふうに思っております。今市でも行政の評価制度というのを持ってまして、外部評価をもちろん外部の先生方から色々と評価していただく、こういう制度もやっております。したがってこういうものの積み重ねでしっかり将来を見据えていくと。無駄があればきちっと省いていく、こういう厳しい外部評価のご意見もありますので、そういうものも今後生かしていきたい。それから防災では色々お世話になってますが、色々ご支援いただきまして参考にさせていただきたいというふうに思います。まさにこれからは市長の最初の挨拶にありましたように、それぞれの持ち分、そして一緒になって今後の座間市を考えていく、こういうことも必要だろうというふうに思っております。そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。個別にもまた、やり取りをさせていただきたいと思ひしております。

【コンサルタント】

ありがとうございます。どうでしょう、続けていきますか。

【市役所】

先ほどキャンプの関係で、私ちょっと説明が足りなかったかもしれませんが、空砲とおっしゃいましたが、空砲じゃなくて花火なんですね、何で花火かといいますと、夜に花火の打ち上げる予定をしまして、その煙のなびき方といいますか火の飛び方といいますか、それを見るために上げたということで説明を受けております。ただそれにしても音が大きくてびっくりをされたという、私自身もそう思いましたので、それはそれで次にはやめて下さいというふうに言ったところでございます。それから14日の基地体験デーというようなかたちで報道もされてると思いますけど、私どものほうも説明があつたときにはいずれにしても市民の方、他の市からもいらっしゃいますけれども、基地を理解していただくという趣旨でむこうは多分そういうイベントを組んで、今回は自衛隊と共催というようなかたちでやっておりますので、そんなトラブルといいますかせっかく来られた方が何かでこうなってしまうと、なるべくそういったことがないようにキャンプの方とよく話をしていきたいというふうに思っています。できるだけそうした情報を密にしていきたいというふうに思っております。跡地計画の方につきましては後ほど市長のほうから申し上げさせていただきます。よろしくお願ひします。

【コンサルタント】

どうでしょうか、続きます、それとももう一度頂きますか。続いて。

【市役所】

保健福祉部長の田中と申します。先ほど病院の関係のご意見をいただきました。今日はこの懇談会最後ということでございますが、各地区でこのご意見をいただいているところでございます。確かに病院、いざとなりましたら近くに総合病院等があれば安心するというような状況でございますが、当座間市におきましても平成18年度までに二次病院的なものが5箇所ございました。それが現在2箇所に減っているような状況でございます。こんな状況ではござい

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	18/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

すが、国県が定めました医療圏というのがございまして、減ってるなかで病院がなぜないんだという状況でございますが、私どものほうの座間市の区域でございますが、県央の医療圏というのがございます。これは国が定める、また県が定めた区域でございますが、相模川の西側につきましては厚木、愛川、清川。相模川の東側こちら側につきましては海老名、綾瀬、大和、座間市というようなかたちで医療圏がございまして。この中で人口等に合わせまして病床数等を定めてございますが、病床過剰地域というような状況でございます、現在。こんな状況がございまして。またいざとなったときに、救急医療こういったものが必要になってございます。このへんにつきましては、相模川の以東の4市海老名、綾瀬、大和、座間市、こちらで輪番制というかたちで広域救急というかたちで体制をなんとか組ませさせていただきななかで、対応を図っているような状況でございます。なにぶんこの医療の関係、医師不足、医療のスタッフの不足、こんなところでなかなか病院等が不足している現状がございまして。このへんをしっかりと国のほうに要望してまいるところでございます。状況といたしましては、お近くにございます診療所それから開業医さん、こういったところに日ごろかかりつけ医を作っておいて、そういったものがまず大切かなというように思います。かかりつけ医から万一大きな病気になった場合は紹介等させていただいて、病院のほうへ繋げていただくような方法を今後皆様方も考えていただくような感じます。以上でございます。

それから付け加えさせていただいて説明をさせていただきますが、今申し上げたかかりつけ医というのは地域の診療所もしくは開業医さんというのが一次、ですから皆さん座間市内にあります病院、それから近隣市にあります病院、こういったものが一次診療の場でございます。それから二次医療と申しますのが、今までございました市内に5箇所の中規模の病院といたしまししょうか、これが現在名前でも申し上げれば相模台病院、相武台病院こういった規模の病院が二次病院ということでございます。さらに高等医療を持ち合わせた病院といたしまして、三次の医療圏がございまして、これがいわゆる大学病院等でございます。近くには北里、東海大学こういった病院が三次というようなかたちでございますので、まずは日常生活を探って病気をされた場合は通常はかかりつけ医さんにお世話になって、そこから病気の大小にかかわる場合は上に紹介をしていただくような方法をとっていただければ最善かと存じます。以上でございます。

【コンサルタント】

ありがとうございます。教育の話はどうします最後にしますか、今よろしいですか。

【市役所】

教育長の金子でございます。防災に関しまして教育委員会のお話がございました。5階は別世界だと、下の話だというような話があったんですが、教育委員会に来て職員の対応が不親切だったのかなというふうなことで、これはきちっと丁寧にお話をしなければいけないということで反省の意味も込めてお話ししているわけでございます。防災担当の方ともこのことについては連携を組みながら進めて行かなきゃいけない。おっしゃるように学校が防災の広域防災の

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	19/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

避難場所になっております。当然教育委員会が無関係というようなことではございません。防災担当、それから色んな部と共有しながら学校とも打ち合わせしながら進めていかなきゃならないことだという風に思っております。私も学校の現場におりましたときに、いざ何かあったときにどうやったら情報がここにくるんだろうかということで、はっきりよくわからないと校長自身としてもやっぱり不安に思っているところがあると思います。私が座間中におりましたときには、地域の連合自治会会長さんとそんな話になりましたときに、まず自治会の方に学校を見てもらい、例えばどういう施設で何が防災倉庫がどこにあって、例えば体育館にはシャワーの施設がありましょうか、一番最初に避難を市民がしたときに、一番最初には玄関に行きますよとか、そういう施設を見てもらったり色んなかたちで学校の関係でそういう懇談会を開いたことがございました。そういうことっていうのは日ごろから大切なことだなと私もそういうふうに思っております。もし、出来れば私は地域のそういう連合自治会とかそういう方たちと学校とがまず学校にどういう施設でどういう例えばそこには医薬品なんかも学校に備わっているわけですね、おそらく保健室がいざ何かあったときには医師が来たりして治療をする場というのものなるだろう、そういうことも想定してどこに何があるかということをも市民の皆様にも知っていただく、こういうことも私は大事なことかなと。これは学校だけで出来ることではありませんし、地域の方と学校とまた防災担当色んな方と打ち合わせしながら進めていくことかなというふうに思っております。私が今答えられるのはこの程度でございますのでよろしくお願いたします。

【コンサルタント】

ありがとうございます。

【市役所】

1件、なぜ立野台地区にてやらないのかというにありました。今回はやはり年間スケジュールの中で設定させていただいたのをまずひとつと、やはり一人でも多くの方ご参加いただきたいということで、まず駐車場のあるところということで設定させていただいた、これが今回の場所の設定でございます。今いただきました、確かに立野台の方についてはこの場所はちょっと離れているという部分は確かにあるかと思っておりますので、これにつきましては次回の中で検討していただいて、やはり一人でも多くの市民の皆さんのご意見をいただくという部分では必要ですので検討していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。以上です。

【コンサルタント】

どうでしょう、お時間もだいぶ迫ってございましてそろそろ締める時間にもなっておりますが、もうひとかた、よろしければ最後の質問ということでお願いいたします。少々お待ち下さい。

【参加者】

入谷4丁目の〇〇と申します。現在市長への要望とか苦情とか報告なんかそういうような受

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	20/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

付というのはどういうふうになってるのか、ちょっとわからないところあるんです。だいたい担当課のほうに持っていくような状況に見えるんですが、それがどうなってるのかお聞きしたい。それとよそでは結構市長への手紙で直接部署があつて直接市長にその文書が全部あがる、それでまず市長のほうから下におりるといような状況になってると思うんですが、その辺をどう考えているのか。それと関連するんですが、先ほど行われた新潟国体でパラリンピックで県代表で座間市の女性が卓球で出て、銀メダルを獲得したんですがそのへんのことは知ってるんでしょうか。そのへんの質問になりますけど、以上です。

【コンサルタント】

今のご質問は、知っているか知っていないかだけでよろしいですか。わかりました。もうお時間の先が迫っておりますので、もしこれだけはというのがなければここで一度終わらせていただきたいと思っておりますけど、よろしいですか。それでは今最後のご質問もございましたので、そこを含めてどうぞお願いいたします。

【市役所】

市民部長の清田と申します。市長への苦情の話なんですけども、失礼しました提案の関係でございませけれども、担当がございませ。それは広聴相談という窓口を一本化させていただいております。例えば広聴相談じゃなくて他の課に直接行かれた場合も、そこから聞いて私どもにきます。私どもの担当が受付しまして当然市長のほうに決裁が行くと。そのなかで回答文があればまた回答していくというそういう一連の流れでございませるのでご理解願いたいと思ひませ。

【コンサルタント】

それでは意見交換のお時間はここでおしまいにしまして、最後まとめということで移ってよろしいでしょうか。お願いいたします。

5. 市長挨拶

それでは8時40分になってしまいました。今日は本当に6回目の最後ということで、これまでいただいたお話なども踏まえながら今日また改めて頂いたお話これをお答えするようなかたちでお話を申し上げたいと思ひませ。まず今いただいた要望等のお話ですが、市長への手紙でいただいたものは全部私が残さず読んでいます。読ませていただいて、これについては当然市の中でもそういう役割分担ございませから、当然その関係をしているセクションに対して私どもから指示をだす、回答するように。その回答の内容についても全て私のほうにあがっております。私だけではなく、関係する職員、幹部職員も含めて一通り目を通して、これについて共通認識を図るようなかたちをとっております。ただその窓口が広聴相談課という風になっておりますので、そのようにご理解いただきたいと思ひませ。この市長へのお手紙いただく内容も色んなことがございませして、正直申し上げて本当に建設的なご意見、耳に痛いご意見、こ

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	21/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

れはというご意見、逆に今度はなぜこういうようなことをおっしゃるんだろうかというふうな非常に悲しくなるようなお話もあったりするわけでございますけれども、それを全てこれは目安箱でございますから、市長への手紙ということで受け止めさせていただいておりますので、その点はそのように理解いただきたいと思います。色々また今日もお話をいただきました。改めてお話を承っているなかで、やはり強く感ずるのは先ほど申し上げましたように時代が大きく変わっていくというなかで、その総合計画もなしくずしに他もやっちゃうから作るんだというようなことは許されない。本当に市民にとって何が必要なのかということについて本当に熟慮をし、切磋をし、そしてコンセンサスというものをきちんと醸成をしてつくっていかねばいけないということを痛感するわけでございます。そのためにもまず必要なのは先ほどもご意見賜ったんでございますけれども、現状どうなんだと、この座間のまちをどう考えるのかどのように位置づけていくのか、どう分析するのか、これをなくしてやはり計画の立案は出来ないわけでございまして、そこをやはりきちんとまずベースを整えなければいけない、というふうに思うわけでございます。これは他の地域でお話ししてるんですけど、この戦後今年で64年目になるわけでございますけれども、高度経済成長にしたがって昭和30年代にはすでにこの座間のまちは都市化の波が押し寄せていたわけでございまして、まず最初は相武台・広野台地域に企業の進出があったわけでございます。これは私が知りえる限りでも昭和30年代の半ばから40年代の前半にはほぼピークの状態への進出があったわけでございまして、それを追いかけるようなかたちで駅周辺に今度はベッドタウンという面での価値に着目がされて、住宅都市の開発が進んできたわけでございます。小田急線の駅があり、また相鉄線の駅があり、横浜へ東京へということで非常に価格面からいっても手ごろであったということがおそらく条件としてあったのと、あとはもうひとつの要因としては今日ここ座間の公民館、まさに座間の入谷、ここ座間の本家本元おそらくそれこそ古墳時代以前から人が住まわれていたこの座間の発祥の地であるここで、最後をしめ括るわけですが、この入谷の皆さんもそれから当時の座間村の皆さんも新田宿の皆さん栗原村の皆さんも持たれていた昔の入会地、そうした相武台・広野台地域の土地をいち早く高度成長の波にしたがって、ある面では手放され見出され、それが開発がなされて現在の市の歩むところが決まっている。夢中になって働いてきた時期というのは、先ほど昼夜間の人口の話について私もお話をしたいと思っていたんですけども、やはりベッドタウンとしてここに住まわれて、昼は外へ働きに出られて、お子さんたちは小中学校はこの座間の中で学ばれても高等学校大学、また専門学校といったようなところは市の外へ出る。これがもう日常の姿であったと言えます。現在もそうした様相があるわけでございます。一方において事業所の関係、これもなぜ座間にきたのかという、結果として座間だったんだというのがおそらく大方の流れであろうと、先祖代々住まわれている方以外の座間にご縁を結ばれた方というの、東京近郊自分のお仕事の都合ですとか、色々なご家族の条件を考えて住宅を買われる。正直申し上げて座間でなきゃいけなかったという必然性があった方どれほどいらっしまったのかということ、私は思うわけでございます。そうした皆さんがここ座間の地に縁を結んで、今では13万近い方たちが17.58㎢と大変狭いまちの中に、1㎢あたり7300人という県下でも4番目の人口密度となるように、ひしめきあって住んでらっしゃる。市街化区

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	22/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

域の中にも都市的な利用というものが92%、9割以上なされている。ある面では開発をされて本当に成熟をしたかたちになっているまちになっているわけでございます。一般的に市、都市という、地方に行けば中心市街地があり、過去においてはそこのど真ん中に市役所があり、またいわゆる行政の施設が集約をし、また中心商店街もあり、周辺部には農村がある、こういうイメージがモデルとしてあるわけでございますけれども、私どもの座間市というのは先ほど7百数十のまちがあるという話の中でのランキングの話を副市長申し上げましたけれども、東京横浜のベッドタウンとしてその中での一機能を果たしているまちであるわけで、この座間のまちだけが単独でもって全てをまかなう、また機能を果たすことが出来るまちではないわけで、そうした状況というものをきちんと踏まえて、そのなかで都市化の進行がある程度成熟をし、そして日本全体が高齢化をし人口が減っていくとうなかで今までシャカリキになって動き回っていたまちが、ここで一旦動きが止まって、これからどうするのといういわゆる峠の時期というのが今なんじゃないかなというふうに思うところでございます。そこにはやはり色んな課題がございます。先ほどもお話しいただいた中での第三次総合計画、前期の部分でこのまちはこれまで立ち遅れていた部分の都市基盤の整備というものがかなりなされました。工場の進出、事業所の進出、そして住宅の進出があったわけでございますが、これはいわゆるスプロール化現象という、都市計画がきちんと立案をされて、それこそどこにどういうものを誘致をするのか、また道路をどういうふうにするのか、それに対する初期投資がなされて、その後に入ってくると、これは理想であるわけでございますけれども、そういうかたちではなく、ただ広い野原があるところをそれぞれが、それぞれのやはり利害に基づいて無政府状態で開発をしてきた。その結果がこのようになっちゃった。その後を追いかけるように国における都市計画法の制定というものがあったわけで、残念ながらこれは今この市政を預かる立場でこれを俯瞰をしたときに、その時にこうだったらばという話はいっぱいあるわけでございますが、今となってはどうしようもない話が数多くあるわけです。これを現実としてやはり我々は受け止めた中でこのまちのありようを考えていかなきゃならない。都市計画法の中での用途地域というのがございます。工業地域、工業専用地域、住居専用地域、商業地域といった具合でございます。市街化区域と市街化調整区域の区割りもございます。座間の場合はこれ全部後付けであったわけでございます。そうした一連のことそれを乗り越えたなかで遅ればせながらも一定の都市基盤整備をしなければいけないということで、やったのが第三次総合計画前期計画。このあたりにあった行政核を人口の中心の上にあがった様々な課題を考えたなかで、今の緑ヶ丘の地区に持つて行く。あの辺りは調整区域であったわけですが、地区計画を含んで区画整理を行い、その一部に行政核を持つて行く。膨大な資金が必要とされたわけでございます。しかしこれはその当時、第三次総合計画策定のときに議論はあったにせよ、最終的に市民のコンセンサスとして執り行われた施策であり、それを実現されたタイミングというものが残念ながらこの座間のまちが運がなかったんでしょうか、バブルがはじけて非常に財政が厳しい時期にぶつかってしまったと、これをやはり現実として受け止めてこれについての取り組みもしなければいけない。それはやってきたなかで先ほど企画財政部長が申し上げましたけれども、きちんとその当時の普通債についての返還というのは粛々淡々と成していっておるわけでございます。下水道

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	23/28
日時	平成 21 年 10 月 22 日(木)	場所	座間市公民館

の面整備もその時期集中的に行ってるわけです。一方には県に要望して、谷戸山公園の整備、これは都市環境の中でも大変大きな私は成果があったというふうに思います。一連のそういうような施策を行い、その後の 10 年というのは今考えてもやはり市民の皆様も含めてそこで一気呵成に行ったことについて、出てきたものについて耐えてきた、我慢をしながらやってきた 10 年だったと私は思っておるわけでございます。さてその中でじゃあ財政、確かに私ども厳しいものがございます。地方分権改革、三位一体のお話もございました。今政権与党が自民公明党の政権から民主党の政権に代わって、またしても地方行政を預かる立場の者も、一般の市民の皆さんもこれからどのように変わっていくんだろうか、またどのように変えていくんだろうかといった大変大きな関心を持たれていると思います。この平成 22 年度の予算の概算要求の中で色々な課題がいわれ、また民主党さんが唱えられたマニフェストにしたがって、色んな政策の提言がされております。私がいちばん関心を持ってるのはやはり地方分権に向けての財政措置であるわけでございます。かつての三位一体改革、地方分権改革のなかで色々税源委譲それから事務の委譲、権限の委譲こういったものが行われてまいりました。その中でいちばん残っているのが、この地方と国との税源の委譲の関係でございます。5 対 5 という最終目標が示されているなかで残念ながらまだ 4 対 6、シブシブ、国のほうからお仕事はこちらで頂戴していただけますけれども、税源の委譲が行われていない、中途半端な状態になっております。その中で先ほどの市債のお話ございましたが、普通債はしっかり返してきてるんですけども、その後の税源委譲がない中で、足りない分については地方公共団体で起債をしてお金を借りてしばらく耐えていて下さい、平たく言えばそういうような施策がこれまでにありました。臨時財政対策債という、借金の宝庫でございます。そうしたことも抜本的にやはりまたしてもこれから地方分権から地域主権、すなわち今回の総合計画もそうなんですけれども、地域で自分たちのことをきちっと考えてその施策に対して責任を持って取り組んでいく、このためにはやはり自主的に判断が出来る財源がなければ出来ない、これを早くやはり移していただきたい、それを私は今の今度の政権に違ったかたちで期待をしておるわけでございますが、この議論の行く末どうなるのか私も注視をしていきたいと思っておるわけでございます。そうした状況があることから、私どもも実際に財政面では大変苦しみながら工夫をし、また皆さんにご理解をいただきながら、これを執行しておるわけでございますけれども、自分が苦しいときは相手も苦しい、マラソンのランナーの言葉でございますけれども、私ども東京近郊の地方公共団体、さらには神奈川県、東京都といったようなところ地方公共団体。日本全国各地の地方の都市に比べればまだまだ恵まれている状況にあるわけです。施策の面においても高齢化の進展というのは地方ははるかに早くいっているわけですし、また例えば中心商店街の衰退化の関係ですとか、また産業対策の関係ですとかこういった課題についても地方では大変大きな問題を抱えながら苦悶をされ、本当に苦しまれ取り組まれている。私ども行政とすればここには大きなまたヒントがあり、成功事例として参考させていただかなければならない、そうしたような取り組みをしていただいているわけでございます。恵まれているというふうに私は職員に申し上げます。そうした点も十分に私ども自身も踏まえたなかで、今日また皆さんから頂戴をしたようなお考えというものを十分に反映させていただきながら、この計画の中にそうした趣旨を盛り込んでいく、

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	24/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

こうした作業が本当に必要になるかというふうに思っております。このなかで本当に高齢化に向けての不安感、医療の関係の話もございました。これは等しくどこの地域に行っても指摘をされる事項でございます。市民感覚でいけば本当にこの地域の中に総合病院ないじゃないかと、これは素朴におかしいと思うのは、当たり前だと思います。ところがこれを保健福祉部長申しあげましたように国・県の施策の中で県央の広域医療圏というひとつの括りが構成をされ、その中でどうなるかという議論、すなわち他の地域の比較の中で先ほどまだここは恵まれているという話という話やってもらいましたけれども、地方にいけばもっと医療過疎があるんだよ、この東京近郊同じ神奈川県でも人口対比の病床数もっと少ないところあるんだよ、それから比べたらその大きな括りの中では満たしているんだよ。こういう議論に今なってしまう、これを自主自立的に私どもの判断のなかで取り組むことが出来ないというふうになってしまった。こうした課題については当然国に対して県に対して地域主権という観点に立ってもっと考えさせて下さい、自分たちでやらせて下さいということは申しあげていかなければならない。これは間違いなくそうだというふうに、そうでなければ病院の誘致も実際にはその病床過剰地域という括りがある以上出来ないということになる、こういった矛盾した話がないわけでございまして、市民感覚からしてそんなばかなというふうに他の地域でおっしゃられましたけれども、全くそのとおりなんです。そこをやはりきちんと変えていく。これは私ども基礎自治体からやはり声をあげて県に問う、これは取り組みをしていく必要があるということを改めてこの地域別懇談会のなかでも私ども強く感じさせていただいておるところであるわけでございます。現実的な対応、与えられた条件私どものこの座間のまちここまできた歴史的な経過そして現状これをきちんと捉えた中で何が出来るのか、何を有効に活用できるのか、これは色々なお考え色々なお立場あるかと思えます。私は例えば思想信条の関係それからお金に対しての価値観、何にいちばん先使ったらいいか色々なお考えがあるかと思えます。とにかく私は今現状この中で、このまちの中で生かせるものを生かしていく。これは国の施策もそうですし、県の施策もそうですし、座間の市民まちの中で生かせるものを生かしていく。例えばそれは先ほどのお話ございました、お金がないんだったら人材を活用しなさい、いっぱい埋もれている人材がいるはずじゃないですかと、全くそうだと思います。これまで本当に高度経済成長を引っ張るべくがむしゃらになって働いてこられた皆さんが、ここでリタイアをする。地域に戻ってこられる。ベッドタウンであったがゆえにこの座間のまちには帰属意識が無い。ふと気がついてみたら座間に住んでいた、そういう皆さんいっぱいいらっしゃると思います。しかしながらこれから今の医療の関係でも介護の関係でもそれから何かあったときの防災の関係でもやはりお互い住んでらっしゃる皆さんが、今まで本当にお隣のご主人の顔も知り合わなかったという方もいらっしゃるんじゃないかと思うんですけれども、そういう方たちがやはりきちんと向き合って課題の解決に向けて力を合わせていくということが必要になってくる、そのためにはこれまでに培われたご経験なり何なりというものをきちんと引き出していき、そうした努力これも行政に課せられた使命だと思う。市民活動サポートセンターのお話もいただきました。ご指摘ももっともだと思います。産声を上げたばかりというふうに言ってしまうえばエクスキューズになってしまうかもしれませんが、おっしゃるように本当に私も十分に受け止めております。

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	25/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

これからそうしたなかで、例えばかつてのコミュニティ自治会ですとか本当に地域の中でのコミュニティそれにプラス今色々な価値観の多様化、また活動の多様化の中で例えばサークル活動の関係でもまたお子さんの関係のPTAでも学校の関係のつながりでも色々なかたちでも人と人とのネットワークというものがあるわけです。そうしたなかにやはり自分の存在をする意思というものを座標軸のなかに決められる、この地域の中で位置づけが出来るというふうなこともやらなければいけない。そこを通して生きがい創造する。さらには社会教育、生涯学習といったような部分にも繋げていく、こうしたようなやはり課題について取り組んでいくためにも市民活動サポートセンターを含めた中で、色々な角度から市内の活動されている皆さんお互いに触れ合う場、情報交換をし、アシストしあうまちというのを作っていく、そしてその中で意識を醸成していくこれもやはり欠かすことが出来ない大事な要素であり、ざっくばらんに言っていちばんお金がかからないまちおこしになるというふうに思うわけでございます。あとひまわりのお話なんかもいただきました。あるところでは大風のお話もいただきました。水のお話もいただきました。水ですとかひまわりですとか大風というのはある面ではこのまちのキーワードになっています。しかしながら残念ながらこの3つについても共通認識がまだ市民の中で出来ていない。ひまわりどこで咲いてるんですか、ひまわりは誰がやってるんですか、ひまわりひとつとってもこれはJAの皆さんが荒廃地の対策、今の国の農政の一連のあり方の中で耕作放棄をする、また荒廃地となったところについてなんとか有効活用できないかと、冬に麦を植えるための緑肥を作りたい。緑肥にするんだったら植物、いわゆる景観作物あるいは色々あるんですね、菜種でもいいんですよ。だけどもあえて座間のまちはひまわりだからひまわり植えようじゃないかと、そのひまわりが面的な広がり、今市内全体では5.5ha55万本咲くわけですけども、それをなんとかただ咲かせるだけじゃなくて、市のシンボルフラワーとして市民が求心力を持つための何らかの施策に出来ないだろうかと、こういうことをやはり少しずつやっていかなきゃいけない、これも先ほどどなたかおっしゃられたと思うんですが、統一性をもった取り組みになってなかったんですこれまで。こうした点についてもやはり色々なお立場で関わってる皆さんが、このひとつの事象を通じてまちをどうしていこうかという、その荒廃地対策としてひまわりを植えたという事象この事実をひとつを知るだけでも今の日本の農業のあり方、それから地産地消のあり方、環境という問題についての考え方を考えるきっかけにもなる。そういうような問題提議の材料にもなるんじゃないかといったようなテーマというのがいっぱいあるわけでございます。これはやはり私どもとしても、単なるそれをお祭りですとかイベントですとかという要素ではなく、まちを知りまちに求心力をつけ、そしてそれを通じて社会の課題、これからの将来の課題を考えるようなテーマとしていく、こういうやはり取り組みが必要になるんじゃないかというふうに思ってます。それからキャンプ座間のお話をいただきました。これから返還予定地についてどうなるんだろうかというふうな具体的なお話をいただきました。今これまでの一連の流れの中でお話をした、キャンプ座間がここにあるということ、これもひとつの歴史的な事実になるわけでございます。戦前にここに旧陸軍士官学校を当時の座間のまちの皆さんが誘致をされ、ここに士官学校が置かれ、結果として太平洋戦争に負けて米軍が進駐し、それが常態化をし、ここにまで至っている。東京近郊の非常に戦略的

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】		頁	26/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館	

に大事なところだということなんでしょうか、ここに司令部機能が置かれ、であるがゆえに国全体の米軍再編の中で今回の第一軍団の司令部というのが置かれるというふうな事情になってきているわけです。これについても色んなお考えがあろうかと思えます。17.58 km²の中にこの米軍基地、今では陸上自衛隊の分屯地も駐屯しておりますけれども、これが存在している。狭いまちの有効活用ということからすれば、これは大変な負担になるわけでございます。それはやはり国にもご理解をいただきたい。沖縄に行けばそういういわゆる面的、物理的な負担だけではなく、色々な部分での社会不安の話も伺います騒音の話も伺います。私どもであれば、厚木の基地の騒音被害の話もでございます。そうした負担これは間違いなくあるわけございまして、これに対してはやはりこれだけ人口集密な地域で、あれがなければ私どもにとって有効活用出来るのに、こういう視点からしてもやはり一定の措置を求めていく、これは当然であろうかというふうに思っておるわけでございます。そうした一連の流れの中で1.1haの返還というものについてはすでに内々示されております。それにプラス、過去の一連の動きの中でももう少し負担軽減というものがなんとかならないのかという声に対して、プラスアルファの部分での返還地の用意もあるというふうに伺っております。これについてこれから具体化をしようかと思えます。どこをそういうふうな一連の施策の中でご提議いただけるのか、それをご提議いただいた段階でやはりこれについては市民にとって、プラスになるような方向で政策を考えていく、これが必要になるかと思えます。しかしながらそこでまた忘れてはならないのが、財政的な課題でございます。過去の体育館の用地等もそうなんですけれども、残念ながらキャンプ座間これは国有地でございます。それを米軍が占有使用している。一連の流れの中で不要地になったものについては返還に応じるということ、ただ返還に応じるということで返還されるのは、私ども座間に対して返還されるわけではなく、国に対して返還をされるわけございまして、それを私ども座間で有効活用するためには、一番国が求めている部分は使いたいなら買い取ってくれ、時価で買い取れと、これは当然私どもとしても出来るわけがないわけございまして、それについてやはり負担を私どもが受任をしている以上は一定の措置を講じていただきたい。その中でやはりこれはネゴシエーションだというふうに思っております。やはりそれを踏まえた中で、ここでこのために膨大な財政的な措置を講ずるなんていうことは、現状全く現実的じゃないわけございまして、それをやはりきちんとその中に踏まえながら今後国との話し合いはしていくという考え方でおるわけでございます。また一方において自衛隊の存在もあるわけですが、これは私は現状のその一連の日本のあり方の中でこれは国の専管事項として外国・防衛があるわけですが、災害時の対応等考えた場合に私はひとつはこれは財産ではないかと。中越の地震、それから今年であれば記憶に新しいところでは兵庫県においては大変な水害ございました。こういった場面でもこの自衛隊の第4施設群といいますけれども、彼らはもうそちらのほうにも災害出動されています。大変な経験も持ってらっしゃいます。そういう方たちが地域の中に駐屯をされているというのは、私は先ほど申し上げたようなリアリスティックな現実的な考え方の中で、万が一のときにはやはりお世話になることと思えますし、現実的にそこについては受けとめをさせていただいて取り組む必要が私はあるのではないかという風に思っております。そうした一連のことも踏まえながら計画策定をするわけ

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】		頁	27/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館	

ですけど、最後にもうひとつお話をしたいと思います。これはベッドタウンベッドタウンと言っておりますけれども、この座間のまち、かつては工業都市として名を馳せた時期があったかと思えます。昭和30年代後半から40年代の半ばにかけてはこの座間のまちは神奈川県内において、川崎、横浜、相模原に次いで4番目の製造品出荷額を誇っていた時期がございます。これは日産自動車が一番ピークのときです。日産さん以外にも色んな企業がございました。あえて申し上げればその頃大変な法人関係の税収があったわけでもございまして、その当時に都市基盤の整備がなされていれば、というふう思うところもあるんでございますけれども、そういった時期があったんです。その中で日産自動車さん平成7年にこの有名だった組み立てプラントをクローズされ、これは大変ショッキングな事態で、私どもの財政においても大きな影響があったわけでもございますけれども、現在日産さんはこの座間に対して大きな投資をしていただきつつございます。皆さんがご覧になると、外から見ると一番北側はカレスト座間と呼ばれる中古車の販売センターになっておるわけでもございまして、その南側のところはバンテックさんの配送センター、物流の関係、それからさらにその南側はでかい建物が建ちましてプロロジスパークと呼ばれる横幅300m以上、幅が80mぐらいですか、長さ300m、幅80m、ものすごく大きな物流のセンターが出来たんですけれども、あちらが出来た関係で日産無くなっちゃったと皆さんお思いになられるんです、どっこい日産は健在でございまして、あちら確かに売っちゃったんですね、ただ今日産さん非常に後悔されてます。あれ売らなきゃ良かったと。ということはその南側、いわゆる小松原のところ北向庚申に抜ける洋らんパーク、洋らんセンターがあるあの道、あれから南側これを日産さんは第二地区とおっしゃてるんですが、南林間線のその挟まれているこの一帯に1つはグローバル生産技術センターという、日産自動車さんが自動車の生産を全世界各地で立ち上げていく、今は消費者主義ですから、日本で作って売らんじゃなくて売れるところへ行って作るというかたちになっていますから、そこで生産ラインを立ち上げる際に国によって国情違います。先進国もあれば発展途上国もある、労働者の訓練の度合いも違う、社会インフラも違う、資材の調達も違う、そうした色々な課題というものを事前にバグ取りをして、現地に行ったときにすぐ立ち上げられるようにというようなことをやるための部隊が座間の中にいらっしゃいます。全世界各地でこの新しいラインを立ち上げるときには世界各地からその工場の皆さんが座間に来られて、研修をされ、一緒に立ち上げの行動をして戻って帰られる、こういう言ってみれば工場の母親の役割をする部分が座間にごございます。さらに過去からあったんですが、これは南林間線の南側の部分ここに工機工場等の倉庫があるんですけれども、この工機工場の部分座間だけではなく、横浜ですとか全国各地からその部分を集約して座間に送ってます。これ何をやるかということ、自動車のボディを成形するための型の開発ですとか、あとは先ほど申し上げた生産ラインに導入するための生産機械、この内作、設計製造開発、こういったものをやはり実際自分のところで作ってる。自分のところで必要なマザーマシンを開発して作ると、こういうことも座間の中で行われているわけです。日産自動車さん本体とすると、横浜に今度本社持ってこられました。厚木にテクニカルセンターございませう。横浜が魂であれば、厚木は脳みそ、我々座間に置かれたこれはまさに物を生み出すための手足、これを持ってきてくれた。これは本社テクニカルセンター私どもそれから追浜の担当、

件名	地域別懇談会 【入谷・立野台地域】	頁	28/28
日時	平成21年10月22日(木)	場所	座間市公民館

今日は実は平塚の日産車体の話が出てましたけれども、この神奈川で日産のこれからの先の自動車ビジネスをやっていくという覚悟を決められて、こちらのほうに戦略的な拠点を全部集約しているわけでございます。そのもうひとつの表れが、ご存知のとおり日産さんは今ハイブリッドカーで遅れてるんですけども、いち早く電気自動車に一気にシフトするというところでこの動きをとっております。この夏にリーフと呼ばれる丁度キューブですとかティーダですとかあのクラスの車と同じ大きさの車なんですけれども、いわゆる軽自動車ではなくて、小型自動車の車格になりますけれども、これを初っ端から5万台作るんだということで、来年の10月から立ち上げるんだということで、ゴーンさんが華々しく打ち上げました。これに必要なのが、一番重要なのがリチウムイオン電池でございます。これは日産さん、NEC と合弁会社、オートモーティブエナジーサプライ株式会社という会社をつくっております、これを座間にもってこられています。ついこの間、この夏にやはりその開発の部分と一次量産のプラントが施設の整備終わりましたしてスタートしました。今後これについてはさらに二次量産の部分三次量産の部分を座間のほうに設置をするという方向でご検討をいただいております。いずれこれは明らかになるかと思えますし、私としてもなんとしても座間の元気、座間の活力、これから先のやはりイメージとしての環境対応というものからしても、この精神的な部分をなんとか考えてもってきたいということで、これを日産さんとの協調行動になりますけれどもやはり取り組みをしていきたい。これがまた次の財政の部分においての大きな私どもの源になるというふうに思っております。これはひとつこの厳しい状況の中での、日産さんとしても乾坤一擲の策、起死回生策として取り組まれている中で私どももこれが起死回生の起爆剤になればというふうに思いながら取り組みをさせていただいております。そうした点これから先、この総合計画が終了する11年半の、この座間の未来、今日ここにいらっしゃる皆さんも含め、私どもも含め本当に真剣にそして同じ土俵に立ち、同じ目線に立ち、ともに協働ということで計画の策定にあたり、さらに取り組みを進めていきたい、このように思うわけでございます。今日は本当に6地区の最後ということで、これまで伺った話プラス今日いただいたお話を含めてとりまとめをさせていただきますけれども、以上のような考え方の中でこれまた整理をさせていただき精査をさせていただきながら、今後の具体的に、第四次総合計画、仮称の第四次総合計画を策定させていただきまして、また皆さんのほうにご提案を申し上げ、ご提示を申し上げご意見をお伺いしたいというふうに思います。本当に貴重なご意見を頂戴致しましてありがとうございます。十分に参考にさせていただきながら、精一杯真剣に取り組んでまいることをお約束いたしまして、本日のお礼を兼ねてのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

6. 閉会

以上をもちまして本日予定をしておりました地域別懇談会の内容につきましては、全て終了いたしました。本日は貴重なお時間とご意見をいただきましてまことにありがとうございました。これをもちまして地域別懇談会を閉じたいと思います。ありがとうございました。